



大 船 山

ホームページアドレス https://www.city.ena.lg.jp/enaschoolnetwork/e/kamayahagi_1/index.html第 6 号
令和7年 8月 29日

「挑戦」「思いやり」の2学期が始まります

校長 高橋 かおり

41日間の夏休みが終わりました。休み中に事件・事故や大きな病気・けがの報告は無く、子ども達も教職員も、みんな元気に過ごせたことをうれしく思っています。「自分がかんばる夏休み・自慢できる夏休みにしてほしい」と終業式で話しましたが、どうだったでしょうか？ 月曜日からは「宝物展」が始まります。ぜひ、子ども達の夏の頑張りをご覧ください。なりに、学校へお越しください。



夏休み中、上矢作で開催されるイベントのいくつか校長、教頭とてお邪魔しました。子ども会のサマーキャンプでは、まず参加者の多さ(子どもも、大人も)に驚きました。園児から6年生まで楽しめる工作教室、子ども達が協力して作ったカレーライス、お父さん方がたくさんの蚊に刺されながら子ども達を脅かした肝試し……。ドローンアタックには上矢作小から4名が参加しました。学年を超えて協力し合う姿に、司会の方も感心されていました。上矢作ふるさとまつりは人の多さと熱気に圧倒され、町内外からあれだけの人を引き寄せるエネルギーに驚きました。大人に交じって太鼓をたたき子ども達の姿に頼もしさを感じました。

学校のグラウンドが茶色になりました。夏休み前には一面緑の草でおおわれてしまったグラウンドを、用務員が耕運機で起こして、ならしてくれました。そこを、体育主任と校務主任が金属探知機で釘などの危険物がないか確認し、今は、運動会の練習に向けてトラックを引く準備をしています。来年度以降に小学校で運動会を行うことも想定して、グラウンドの端から端までの距離や目印となる固定物からの距離を測って設計図を作っているところです。

イベントとグラウンド、これらのことから考えたことがあります。一つ目は「誰かのために何かをしたい」という思いは大きな力になるということ。子ども達により経験をたくさんさせてあげたい、上矢作町の人たちに楽しんでもらいたいという思いが集まり、あんなに素敵なイベントが開催されます。学校でも同じです。低学年の子たちにも楽しんでもらえるように、上矢作小学校をよくするために、学級の課題をみんなで解決するためにという思いで取り組んだことが、少しずつ学校を変えていきます。グラウンドの整備にも、子ども達への愛情がたっぷり込められています。学校や地域での活動をとおして、「人には(もちろん自分にも)世の中をよくする力がある」ことに、子ども達が気付けるよう支援していきたいです。

二つ目は、「学校で勉強したことは、ちゃんと役に立つ」ということです。距離(長さ)を測る学習は2年生で、1周120mのトラックの引き方は5年生、実際にグラウンドに線を引くときは中学校の数学も使います。計算に必要なたし算、ひき算、かけ算、わり算、小数も含むと1年生からの学習をフル活用します。金属探知機の仕組みには中学校の理科の学習内容が使われているようですが、その土台の電気や磁石は小学校で学習します。「もっと便利に快適に」とか「もっと人や自然にやさしく」と考え、工夫して生み出された物や仕組みが、身の回りにはたくさんあります。勉強したことを授業の中だけで終わらせるのはもったいないです。

さあ、2学期が始まります。2学期最初の第4ステージの目標は「ちょうせん」、第5ステージは「おもいやり」です。たくさん学んで、考えて、協力して、失敗してもまた考えて……。 「よりよい自分、よりよい学級、よりよい上矢作小」の実現に向けて子ども達が粘り強く取り組めるよう努めて参ります。保護者の皆さま、地域の皆さま、2学期もよろしくお願いたします。